



5月号

令和5年5月1日

神根小だより

川口市立神根小学校
在籍児童292名16学級



神根小の目指す子ども像の実現へむけて

校長 篠崎 弘敬

早いもので、令和5年度がスタートして1か月が過ぎました。

さて、3年以上にも及ぶコロナ禍という長いトンネルを抜けつつあります。少しずつではありますが、明るい兆しが見えつつあります。報道等でご存じではあるかと思いますが、5月8日以降新型コロナウイルスの感染上の分類が5類に引き下げられます。療養期間、行動制限、濃厚接触者の行動制限もなくなります。

子供たちの生活や学校行事等においても、少しずつコロナの前の状態に近づけてく必要性があります。また、社会全体の流れの中で働き方改革があります。これらの2つのことをバランス良く進め学校経営を行っていきたいと考えています。

先月号でも掲載しましたが、本校の目指す子ども像についてももう少しお伝えしたいと思います。

めざす子ども像 (か・み・ね の子)

かしこい子	よく見て、よく聞いて、よく考える子 自分の考えを持ち、ものの善悪を正しく判断し行動する子
みんな仲良く助け合う子	認め合い、磨き合い、協力し、助け合い、高め合う子豊かな感性に満ち、美しいものや自然に感動する子
ねばりづよい子	心身ともにたくましく、最後までがんばりぬく子 自分の目標を持ち、ねばりづよく続けられる子

このような資質を小学校時代に身に付けることによって生涯に渡り自分の力を高め豊かな人生を送ることができると思います。良い行動、良い習慣を小学生時代に学び「人生百年時代」をたくましく生きて欲しいと願っています。

大切なことは、このような子供をどのように育てていくかであります。本校は昨年度から『学びの共同体』に取り組んでいます。以前から行われていた黒板とチョークを用いた一斉授業とは違いペア学習やグループ学習が中心になります。課題に対してグループで聴き合いながら課題に迫ります。少人数のグループの中では、わからないことを聴くことへの抵抗が低くなり学び残しが減少します。わからないうことや疑問に思ったことを全体の前で質問したり「わかりません」と言ったりすることを苦手としている子供は多いのではないかと思います。大人の私でも会議等でわからないことがあった時、全体の前で質問することをためらった経験があります。

グループ内での話し合いの場面では、少人数のため発言の機会が増えます。一斉授業での発言の回数と比べれば、その回数は増えます。学んだことを自分の言葉で発信することは、思考を整理することにつながり知識が蓄積されていきます。また、グループ学習を通じ「友だちと助けあう心」や「諦めず粘り強く取り組む心」を醸成することが可能になります。今年度も引き続き『学びの共同体』に取り組み、神根小学校が目指す子ども像に近づけて行きたいと思います。

明治6年開校 やる気と根気で夢をかなえる神根っ子

かしこい子
みんな仲良く
助け合う子
ねばりづよい子

150 ANNIVERSARY

川口市立神根小学校